

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【常盤小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	ICTの活用を含めた基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力の維持・向上を図ることはできている。 ・市平均と比べれば全体的に学力向上が図られているといえるが、各教科の各分野まで見てみると習熟の不十分な部分があることもわかる。また、個人差の幅をなるべく小さくできるように、学習支援の在り方を工夫・改善に向けて研究していく。
思考・判断・表現	学年の発達段階に応じて、小集団の意見交換を通して自分の考えをまとめていく活動や、収集した情報を関連付けて考察する活動を積極的に取り入れていく。「考える力」を伸ばすために、長所である「知識・技能」を生かし、「思考・判断・表現力」をさらに高めていきたいと考える。そのためにICTの活用における先行研究等を学校全体で共有し、授業改善を進めていく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語…思考・判断・表現力における「書く」領域 算数…「データの活用」 <指導上の課題>児童個々への対応を効果的に進め、定着度の差をできるだけ小さくしていく必要がある。	・スクールタッシュボードの学習履歴を活用したり、SA等による個別指導を行ったりするなど、学習の個別最適化を図る。【1月1回以上指導方針確認】 ⇒ ・1人1台端末を活用し、スタディサプリやドリルパークによる個別最適な問題演習に取り組む機会を設ける。【業前学習、家庭学習等で実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語…思考・判断・表現力における「書く」領域 算数…「データの活用」 <指導上の課題>内容を直接学習する単元が少なく、繰り返し取り組んだり、思考を深めたりする機会が不足している。	・他教科でグラフを取り扱う際に、読み取り方のポイント示すなど、視覚情報から多面的に思考できるようにする。【関連教科で実施】 ⇒ ・自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための工夫を意識できるように、授業改善を図る。【国語科を中心に各教科で毎時間】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	・ドリルパーク、スタディサプリ等の学習アプリの活用やSA等による個別指導により、基礎・基本の定着や個々への対応を充実させることができた。ICTの活用を向上させることで学習の最適化についてはできたものの、スクールタッシュボードの活用については課題が残るため、方法について検討していきたい。 ・昨年度までの課題に対する指導を、各学年の発達段階に応じて行ってきたことにより、成果が見られた内容が多かった。特にデータの活用分野ではその傾向が顕著であり、1人1台端末の活用が進んだ成果であるといえる。
思考・判断・表現	B	・ICTの活用や小集団活用による協働学習を積極的に取り入れたことで、相互のコミュニケーションが活性化し、思考を深めたり、考えをまとめることにつながっていた。今後も継続していくことで、さらに充実した活動ができるものとする。 ・市平均より高い結果になっているが、「知識・技能」の方が平均との上回りが大きく、「思考・判断・表現力」を一層高める手立ても必要である。長所である「知識・技能」を生かし、「思考・判断・表現力」をさらに高めていきたいと考える。そのためにICTの活用における先行研究等を学校全体で共有し、授業改善を進めていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語・算数の「知識・技能」は、全国平均を大きく上回っており、昨年度までと比較して同等の結果となっている。理科においても全国平均を大きく上回る結果となった。国語では、言葉の遣い方、漢字、世代による言葉の違いを見る問題において8割以上の正答率となっており、基礎学力が定着していることがわかる。算数では、単位数あたりの数を分数を用いて表す問題の正答率が低い結果となり、複数の取組事項を関連付けて考える力に課題がある。また、理科では、アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石を引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ問題の正答率が低い結果となった。課題のある学習内容について知識の確実な定着を図ってほしい。
思考・判断・表現	国語・算数の「思考・判断・表現」は、全国平均を大きく上回っており、昨年度までと比較して同等の結果となっている。理科においても全国平均を大きく上回る結果となった。国語、算数、理科共に記述式問題の正答率が低い結果となり、問題に即して、自分の考えを適切に書き表す力に課題が見られる。特に国語の、「目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる」問題においては無解答率も1割近くになっている。また、算数の棒グラフから読み取ったことを書く問題においても、正答率が低い結果となった。本校児童の基礎学力の高さを十分に発揮できるように、自分の考えをまとめ、記述する等の「考えを書く」指導を意図的に行っていく必要がある。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	・調査結果の市平均を上回っており、基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力の維持・向上を図ることができている。 ・社会科では基本的知識を問われるような問題に課題が見られる。具体的には地図記号についての問題に誤答が多い結果となった。基本的な知識を問われている問題であるのでドリルパーク等のICTも活用しながら習熟を図る必要がある。 ・国語科では学力調査を実施した全学年に「主語・述語」に関する問題に誤答が多い結果となっている。ドリルパーク等のICT活用による習熟と、実際に作文を書く学習においても意識づける必要がある。 ・算数では「データの活用」におけるグラフの正しい読み取り等が昨年度まで課題が見られたが、今年度は上昇傾向にある。一人一台端末の活用が進み、児童が多量の教科においてデータを活用していることが、結果にも繋がっていると考えられるので、今後も教科横断的にICTを活用していきたい。
思考・判断・表現	・調査結果は市平均を上回っており、前年度までと同程度の水準を維持している。学習ツールとしてのICT活用と従来の学び合いがバランスよく実施されてきた成果と考える。 ・国語では「話すこと・聞くこと」において、意見の共通点や相違点に着目し、考えをまとめることに課題が見られ、要点を捉えた話の聞き方が身に付くような指導の工夫が必要である。特に小3では、市平均を下回っており、該当単元における授業内容を振り返る必要がある。 ・理科では、「生命分野」における「種子の発芽の条件に関する問題」に課題が見られた。この問題は知識と知識を関連付け、思考する力が必要な問題である。理科に限らず、他教科においても同種の問題にや課題が見られる。SSSPを意識した授業作りなど、より良く思考・判断・表現の力が身に付けられるよう、授業づくりを見直し意識が必要である。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	基礎・基本の定着について、ICTの活用を中心に据えた個別最適な指導をこれからも継続して行うことにより、高めていけるようにしていきたい。	・2学期となり、個別指導、個別支援が必要な部分も見えてきたので、適切にSA等を配置し、知識・技能の全体の底上げを図っていく。【1月1回以上指導方針確認】 ・低学年においてもICTの活用が進んできたので、引き続きスタディサプリやドリルパークの活用を進めていく。【業前学習、家庭学習等で実施】
思考・判断・表現	B	全国学力・学習状況調査結果を受け、更に力を高めていくという視点で、授業でのまとめや振り返り等の時間を活用し、自分の考えをまとめ、記述する等の「考えを書く」指導を意図的に行っていく。	・学校課題研修で行った自校アンケートにおいて「考えを相手にわかりやすく伝える」に関する項目に課題があったことを児童に伝え、課題意識をもてるようにした。引き続き、学校全体で自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための工夫について意識できるように、授業改善を図る。【国語科を中心に各教科で毎時間】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)